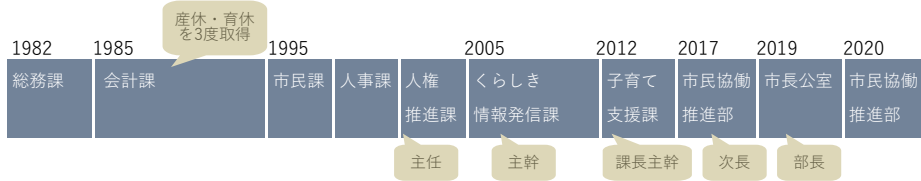




企画財政局
市民協働推進部 部長 桑木 真澄
昭和57年度入庁

平凡は非凡にまさる。

平凡は地味ではあるが、底に奥深い滋味が潜んでいる。



Q これまでの仕事で印象に残っていることは何ですか。

平成30年7月豪雨です。それまで当たり前だと思っていた日常が、どれだけ尊いものだったのかを思い知りました。避難所応援の際には、御家族や住む場所を失い茫然とされている方々を目の前にして、私に何ができるのか、何をすべきなのかと無我夢中でした。当時の対応が最善であったのは今でも分かりませんが、30数年間倉敷市職員として学んできたこと、すべての感情や体力を出し切った日々だったと思います。

Q 今だからこそ伝えたい、仕事のやりがいとは。

今まで多くの業務を経験してきました。窓口業務では、私の対応によって市役所全体の不信感に繋がることもあるので、大変さを感じることもありますが、満足のいく対応ができ、市民の方から感謝の言葉をいただいたときには、やはり嬉しいものです。こうしたささやかなことの積み重ねが、私の仕事のやりがいに繋がってきました。仕事の捉え方は自分次第です。多種多様な市役所業務のそれぞれに、たくさんのやりがいがあると思います。

Q 女性職員の視点から感じる、倉敷市での働きやすさについて教えてください。

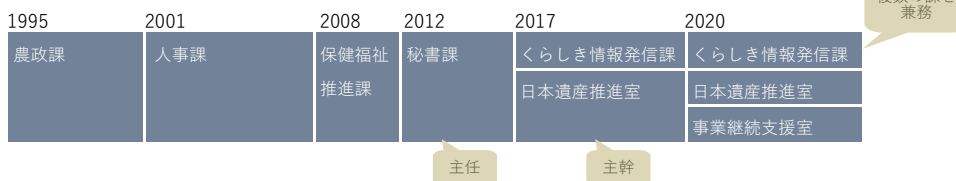
職員の子育てや介護に関する休暇・休業制度はかなり充実してきて、性別を問わず利用できていると感じます。私が初めて育休を利用したころは、制度ができたばかりで取得を迷いましたが、育休のない時代に子育てを経験した先輩職員が「子供と過ごせるのは今しかないよ。」と背中を押してくれました。今、職員が互いの家族の話題で談笑する光景を見て、子育てや介護に協力的な職場の風土が引き継がれていると感じています。

市職員を目指す皆さんへ

住民の日常生活を一番近くで支えられることが市役所職員の魅力であることはもちろん、自然・文化・都市機能が程よく調和し、これからも進化していく倉敷市には、たくさんの活躍の場があります。性別や職種、立場に捉われないで、「人の役に立ちたい」という自分の気持ちと向き合ってみてください。皆さんのやりたいことは、きっと倉敷市役所で見つかると思いますよ。

倉敷市の多彩な魅力を、

より多くの人に伝えることに取り組んでいます。



市長公室
暮らしき情報発信課 主幹 川崎 秀之
平成7年度入庁

Q これまでの仕事で印象に残っていることは何ですか。

これまで携わってきた業務を振り返ってみると、失敗も多かったですが、周りの人に助けられ、各部署で得難い経験をさせてもらったと感じています。特に印象に残っているのは、現在も所属している日本遺産推進室の業務です。倉敷のまちの成り立ちや、市が持つ個性や魅力を改めて学ぶ機会となっただけでなく、各部署から集まった同僚と切磋琢磨し、お互いを高め合うことができたと感じています。

Q 今だからこそ伝えたい、仕事のやりがいとは。

市役所の業務は多岐にわたり、職場を異動すると業務内容も環境も全く変わります。当然、組織目標や仕事の進め方なども異なることから、柔軟性や臨機応変さも求められます。何年経っても正解が分かりませんが、その分、刺激もあり、多くの経験ができるチャンスもあります。また、自らの生活に直結した知識が得られることや、かかわった仕事が地域の魅力向上に繋がるなど、様々な形で後世に残ることも、やりがいに繋がりますね。

Q 管理職として働くうえで大事にしていることはありますか。

無駄なく効率的に業務を行うために、自分のスケジュール管理は、どれだけ忙しくても最優先で丁寧に行うよう心がけています。そうすることで、ルーチンワークの中にも業務改善や新たな企画を生み出すための「考える時間」ができ、プライベートの時間確保にも有効です。また、苦手・不得手分野については、知識を得るためにも、上司・同僚・部下にかかわらず協力を求めることや頼ることを常々意識しています。

市職員を目指す皆さんへ

社会・生活環境が目まぐるしく変化中、行政の使命・役割も大きく変わる時期に来ていると日々感じています。将来を見据える、「地域のため」「市民の皆さんのため」といった視点がより重視されることから、新しい知識と感性を持った皆さんの力が発揮できる機会が多いと思います。「我がまちをより良く」「より住みたいと思えるまちづくり」に一緒に取り組みませんか。